

アカシア探険隊

M1・2012(冬)
～経済産業省潜入の巻～65回 谷(和田)みどり氏
～経済産業省 商務流通グループ
消費者政策研究官～

中：「お～い、世の中いろいろ大変なことばかりじゃけー、誰かに良おしてもらわにゃーな。」

谷口：「…ボスは今度も何かたくらんどるみたいじゃ。先輩！私はなーんも悪いことはしとりません。それに私は頭痛と歯痛と腹痛が同時に来てどうにもなりませんよー。」

中：「なんじゃ、まだ何にも言うとりもせんのに…。わかった、わかった。今回はワシー人で行って土産を買ってきてやるけ、土産代をよこせ。」

谷口：「耳も痛うて聞こえません」ということで、今回は消費者の立場に立って助けてくれそうな谷みどり氏(65回。旧姓和田)を訪ねて東京に一人で行ってきました。

谷氏は記者より一年先輩なのですが、高校で留学し、Ⅲ年の2学期3学



期は同期生でした。東大に進学後、通産省に入省。IEA、内閣官房、環境省と省を跨って能力を発揮され、初の専門スタッフ職として消費者の味方となり大活躍、大学院の非常勤講師も務められています。



中：慣れん記者ですが、よろしゅう。
谷：お久しぶり。今日は見出しが谷と

谷になるかと心配してました。
中：そうなんです。谷口は頭痛と歯痛と陣痛でどうにもなりません。

谷：……？

中：生まれは翠町なんですね。

谷：中学の途中で五日市に引っ越すまでは、ずっと翠町でした。私の名前は町名からつけられました。当時は出生届けの際「翠」が人名漢字として認められなかったの、ひらがなで届けたそうです。

中：なるほど。引っ越したら学校まで遠くなって大変だったのでは？

谷：広電の宮島線と3番線乗り継いでね。時間はかかるけど、同じ路線で帰る友達とおしゃべりするのは楽しかったですね。あと、通学中に語学を勉強するのが身に付きました。大学時代や入省後も、語学は電車内で勉強しました。

中：僕と大違いですね。電車に乗ったら直ぐ眠れます。クラブ活動は何を？

谷：中学・高校とも合唱班でした。歌うのもピアノ伴奏をするのも大好きです。それから、クラブではなかったのですが、高Ⅰの時、有志で影絵の人形劇をやりました。発起人として、広大の人形劇サークルに技術指導を乞いました。中学での上演の要請もあったほど好評でした。

中：有志でやるとはすばらしい。

谷：Ⅲ年になって、米国ボストン郊外の歴史あるミルトンアカデミー高校に留学しましたが、そこでも合唱やミュージカルをしました。東大に入學したら、当時は女子が極端に少なく、文化祭ではクラスで女子大と組むため東大の女子は参加できないという風潮があり、不満でした。そこで五月祭では学部を跨いで女子を集結し、「ベルサイユのばら」を上演しました。女子だけの企画は東大初で、ベルばらの作者の池田理代子氏も見に来て下さいました。私は脚本と演出を担当し、法学部の早稲田美



P r o f i l e

昭和30年5月2日広島市翠町生まれ、43年広島市立皆実小学校卒業、46年広島大学附属中学校卒業、49年米国ミルトンアカデミー高校卒業(AFSによる一年間の留学)、50年広島大学附属高等学校卒業、54年東京大学経済学部経済学科卒業、同年通産省入省、61年米国スタンフォード大学政治学科修士課程を修了、平成5年通産省通商調査室長、6年同省通商広報室長、7年同省資源エネルギー庁NEDO(新エネルギー産業技術総合開発機構)室長、8年IEA(国際エネルギー機関)国別審査課長、11年通産省地球環境対策室長、13年内閣官房副長官補付き参事官、14年経産省貿易振興課長、15年環境省環境計画課長、16年同省水環境部企画課長、17年経産省消費経済部長、19年同省官房審議官(消費者政策担当)、同年10月独立行政法人経済産業研究所上席研究員、10年7月経済産業省商務流通グループ消費者政策研究官、(東京大学公共政策大学院非常勤講師も)、

穂子さん(65回。今は水谷さん)も一緒でしたよ。また、東大・早大・東京外大のロシア語劇の合同サークルに参加し、チャイコフスキーのオペラ「エフゲニ・オネーギン」を東京外大で上演しました。

中：消費者運動もしたとか？

谷：高Ⅲの留学中に第1次オイルショックがあり、附属に戻って売店でノートを買ったら、すごく高くなっていて驚きました。東大に入學して学生に安く物品を供給するため東大生協の理事をやり、3年生の時は東大生協初の女子の学生委員長になりました。当時の消費市場にはいろいろ問題があり、これを正したいと思ったのも通産省を志望した理由の一つです。

株式会社 融合事務所

所属俳優



柳葉 敏郎



勝俣 州和

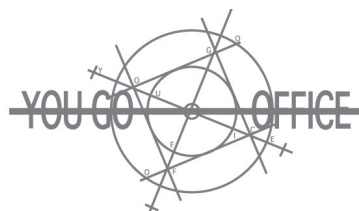


木村 多江



高橋 かおり

代表取締役 宮崎 忠 (66回)

<http://www.yougooffice.com/>

株式会社 融合事務所 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-9-4 長谷川ビル4F TEL:03-3794-2404

中：それは勇ましい。

谷：官庁訪問の時、産業行政も消費者の視点に立つことが大事と話しました。通産省ではエネルギー政策や中小企業対策、技術開発を担当したり、1994年版の通商白書を書いたり、対日直接投資を促進したりしました。環境省、IEA(国際エネルギー機関)、内閣官房も経験し、組織の垣根を越えて見聞を広めることができました。特に環境省では小池百合子大臣の下、「環境と経済の好循環ビジョン」の策定や2004年版環境白書の執筆などを通じて国民へのメッセージの出し方を学ぶことができました。水質汚濁防止法の執行も勉強になりました。その後、経済産業省消費経済部長に任命された時は、消費者政策にかかわれるのが嬉しかったです。

中：入省前の原点に戻ったんですね。

谷：本当に。その後、公務員制度改革でできた専門スタッフ職の第一号として、消費者政策研究官になりました。専門スタッフ職という制度を国民の役に立つものとするため、手腕を問われると思っています。外国の消費者政策や国際会議の議論を省内に紹介し、最近の消費者政策を一般に周知、広報するなどの仕事をしています。たとえば昨年11月3日付けのフジサンケイビジネスアイに載った「子どものライター事故を防ぐ」など、ネットで見られる記事もあります。日本の環境政策と消費者政策について作った英文の解説は、日本語訳付きのものも含め、経済産業研究所のホームページに掲載しています。また、消費者政策のほか、日本の環境政策、日本の立法過程、女性の働き方などについても、様々なところから依頼されて授業や講演をしたり、シンポジウムに出たりしています。

中：大学でも教えているんですか。

谷：専門スタッフ職は兼務が許されていて、私は東京大学公共政策大学院の非常勤講師も務めています。夏学期は「京都議定書を読む」という英語での授業をしています。受講者は留学生と日本人学生が半々です。京都議定書は、国際交渉の結果、玉虫色の文章になっています。これを読んで具体的な疑問点を見つけ、京都会議後の後の交渉結果から疑問への答えを探っていくことが授業の内容です。学生には毎回論点を提出させ、

グループディスカッションと発表を求めます。最後は各生徒が国を選んで、交渉ごっこをします。これは、私が川口順子環境大臣の下で国際交渉に携わった経験の一部を体験させようとする試みです。毎年少しずつ改善を加え、もう3年目を迎えました。

中：授業スタイルも変わっていますね。

谷：この授業では、まず問題発見能力を重視します。整理された情報を与えられて覚えるのではなく、混沌とした情報の中から重要な点は何か判断し、問題意識を他の人と共有し、合意に向けて努力する経験をさせたいと思います。これには、異文化間のコミュニケーションの力も必要です。日本人同士だと、自分の意見でなくその場の空気を読んで発言しがちです。そうではなく、異質な相手と話し、お互いに賛成できなくとも理解し合えるよう努力する機会を提供したいと思います。

中：留学した影響もあったんですか？



谷：そうですね。スタンフォード大学に留学した時、授業の主眼が日本のような学問ではなく、実際の社会で役立つことに置かれていると感じました。政治学の教授にコンドリーザ・ライス先生(その後米国国务長官)がおられ、アメリカの政策によって世界をどう動かすかという問題意識に、感銘を受けました。

中：最近、製品安全や悪質商法の防止に注力していますね。

谷：経産省のホームページに掲載している製品安全ガイドの子供向け資料のまんが「みおちゃんとまもるくんの製品事故から身を守るために」は、私が描いたものです。今、高校3年生が卒業前の2月3月に、製品安全や悪質商法についての教育を受けるようになってほしいと願っています。大学進学や就職で親元を離れた時、悪質な訪問販売やマルチ商法などの被害を受けるケースが目立ちま

す。独り暮らしを始めた若者は、悪徳業者にとってカモなのです。あるいはガス給湯器による一酸化炭素中毒などに遭うこともあります。それまで屋内型の給湯器など使ったことがなく、換気することを知らない若者が多いのです。取引の契約書や取扱説明書を読んで理解する力も必要です。母校にも是非勧めてください。

中：わかりました。掛け合ってみますよ。それから、現役の生徒たちへのメッセージをお願いします。

谷：社会に出て役立つのは、新しい環境に自分を適応させる技です。突然知らない分野の仕事をしなければならぬ時、本やその道にたけた人の話から知識を得たり、周囲の協力を得たりするための基本的な行動様式が身につけている必要があります。高校時代の人形劇では、人形や背景の作り方を大学生に教えてもらいました。合唱班は、仲間と力を合わせるよい機会でした。何かを実現したいと切実に思うことが、自分を動かすし、人も動かすのだと思います。そんな経験がたくさんできるといいですね。

中：アカシアのメンバーへのメッセージをお願いします。

谷：世の中を渡っていくためには相場観も必要ですが、その前に、自分は何が正しいと思い、何が間違っているかと考えるかということ、しっかりと持っていていただきたいと思えますし、自分も常にそうであり続けたいと思えます。また、本当に大変だったと思う経験が自分を強くしていると思えます。1990年にイラクがクウェートを侵略した時、私は資源エネルギー庁の国際資源課の補佐で大変な思いをしましたが、この経験は、その後国際機関で働いたり国際交渉をしたりするとき、たいへん役に立ちました。

中：今後、消費者のために一層の活躍を期待しています。

中本泰弘(65回)

